

ていけないと考えています。

2017年度、日野自動車のグローバル販売台数はトラック・バス合計で18万台に達するなど過去最高を更新しました。いまや全世界で90を超える国・地域のお客様に、「HINO」ブランドの商用車を選んでいただいております。アジア・北米・中南米・ヨーロッパ・中東・オセアニアなど多数の海外拠点を置いています。また連結で3万2,000人余りの社員の中には、トップマネジメントから一般社員まで数多くの海外現地の方々が働いています。すべてのメンバーが、日本はもとより世界中の方々から「愛される企業」を目指し、この環境変化に対応していくことが必要であると考えています。

——この激動の時代を乗り越えるべく打ち出したスローガン「もっと、はたらくトラック・バス」には、どのような思いが込められているのでしょうか。

トラック・バスはモノを運び、人が移動するためのいわば「道具」として特化したクルマです。とくに、新興国や発展途上国を訪れると、マイカーを持たない人が多数を占めており、トラックやバスの重要性、必要性を改めて強く感じる場合があります。

「もっと、はたらくトラック・バス」には、私たちが世に送り出すクルマがもっとはたらく存在になることで、より多くの社会課題を解決し、社会全体の発展に貢献していきたいという想いを込めています。その積み重ねが、“世界で愛される日野自動車”につながっていくことを確信しています。

**「3つの方向性」を貫くことで、
より社会に有益な存在になっていく**

——今後の事業の方向性について具体的にお聞かせください。

私たちは「もっと、はたらくトラック・バス」の実現に向け、「安全・環境技術を追求した最適商品」、「最高にカスタマイズされたトータルサポート」、「新たな領域へのチャレンジ」という3つの方向性を貫いていきます。「安全・環境」の分野は、トラック・バスメーカーとして取り組むべき最低限の責務ですが、一方でトラック・バスに対して昔ながらの安全・環境面での悪い印象を持たれている方も少なくありません。私たちはこうした「負のイメージ」を払拭すべく、今後も徹底的に安全・環境技術を磨きあげていきたいと考えています。

まず、何よりも優先すべきは「安全」です。トラック・バスによる交通事故死傷者ゼロを目標として、新モデルの車両では自動ブレーキを標準設定するなど、安全装備を充実させてきました。今後も先進安全技術をいち早く導入していきたいと思えます。環境面においてもCO₂削減を目指し、ハイブリッド車をはじめとした電動化車両の導入を積極的に進めてまいります。また、ドライバー不足が深刻な問題となる中、トラック・バスの操作性・居住性の向上や、物流業界では無視できない荷降ろし時の負担の軽減など、すべてのドライバーの活躍を支える技術革新も実現していきたいと考えています。

次の「最高にカスタマイズされたトータルサポート」には、全世界で約175万台もの日野のトラック・バスが走っている中、その一台一台すべてに最適な整備を施さなければならないという想いを重ねています。とくにトラック・バスはお客様が仕事の道具としてお使いいただく期間も長いいため、いつでも“使える状態”を維持するべく、販売会社などでは整備工場の拡張やレーンの増設など、サービス面を充実させる取り組みを進めています。

またトラックやバスの走り方は、国や地域、道路状況や仕事内容によってまったく違うものです。各

代表取締役社長
最高経営責任者

下 義生

何よりお客様の声に耳を傾け、 いつの時代も社会に必要とされる日野自動車であり続けます。

自動車業界は未だかつてない急激な変化に直面しています。この大変革の真っただ中に、日野自動車がトラック・バスのリーディングカンパニーとしていかにして社会課題に取り組み、持続的な成長と企業価値向上を果たそうとしているのか、代表取締役社長 兼 最高経営責任者 下 義生が未来への指針を語りました。

さまざまな社会課題の解決に向けて、 トラック・バスの力が必要とされている

——2017年6月の社長就任から1年以上が経過しました。現在の事業を取り巻く環境と、2017年度の振り返りについてお聞かせください。

いま、自動車業界は自動運転や電気自動車

(EV)に象徴されるように、100年に一度ともいわれる大変革の中にあります。また、CO₂の排出による地球温暖化はもちろん、eコマースの拡大や高齢化にともなうドライバー不足や安全ニーズの高まり、過疎化による移動手段不足などが社会課題として浮き彫りとなる中で、トラック・バスを取り巻く環境も大きく変化しようとしています。こうした環境変化に対し私たちは、より速く、よりの確に対応していかなければ、生き残っ

国の物流の状況を理解したうえで、お客様の使い方に合わせてサービスをカスタマイズしていく——そういったサポートを通じて、私たちの社会的価値を高めていきたいと思っています。さらには「新たな領域へのチャレンジ」として、**物流や交通の未来像を見据えた創造的な挑戦を通じて世界中の社会課題を解決し、トラック・バスが社会にとってより有益な存在になることを目指します。**

——新しい物流の形を模索する新会社も設立されたそうですね。

2018年6月に日野自動車100%出資の子会社「NEXT Logistics Japan株式会社」を設立しました。私たちは商用車メーカーとして、最適商品やサービスを提供することはもちろん、**お客様や社会が困っている物流や交通の課題解決に挑戦していくべきだ**と考えています。すでにトラックのドライバー不足への対策として隊列走行の実証実験を重ねているほか、将来的には自動運転やより高度な環境技術の実用化を見据えた未来像を描いています。この先の20年、30年先という長いレンジで見たときに、取り組むべき課題はたくさんありますが、この会社は私たちが**“新しい物流”の具現化を目指して踏み出した新たな一歩であり、社会全体の大きな利益につながるもの**と信じています。

真のグローバル企業を目指して 国際社会や地域社会の要請・期待に応える

——日野自動車が果たすべきCSRについて、どのようにお考えですか。

日野自動車が展開するトラック・バス事業は、

社会基盤としての物流や交通を支えるお客様のビジネスに貢献するという意味で非常に公益性の高い事業であり、本業の追求がCSR、その先のCSVの推進と大いに重なるものと考えています。たとえば自動運転などの次世代の技術は、乗用車以上にトラック・バスに搭載されてこそ、より大きな社会的価値を生み出すものではないでしょうか。

「3つの方向性」にも掲げたとおり、トラック・バス事業を通じて多くの社会課題の解決に貢献したいと考えています。現有の技術で対応できるものがあれば、将来的な実現を目指す技術もあり、異なる時間軸の中で挑戦を重ねていくことが大切です。そのうえでいざ技術的なブレイクスルーが起きたときに何ができるのか——これを常に念頭に置きつつ技術・商品開発を進め、**未来に向けた事業のロードマップをしっかりと描くことが私たちの責務である**と考えています。

——SDGs(持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)の視点に基づくグローバル社会からの要請について、日野自動車としてどのように対応していくべきとお考えですか。

私たちはグローバル企業として、**一連の国際社会の要請に応えていくことは当然である**と考えています。一方で、創業の地である日野市をはじめとする地域との密接な関係性があるからこそグローバルであるとも考えます。むしろトラック・バスという地域社会との接点が密接な事業であるからこそ、一層地域に貢献しようという意思を社員一人ひとりが強く持ったうえで、事業と向き合っていかなければなりません。

大切なのは、**地域のお客様や社会が求めているものに常に真摯に耳を傾けること**であり、そこに**向けた技術開発**です。このプロセスこそが、日野

自動車がずっと大切にしてきたトータルサポートであり、ここを違えれば私たちはいつの間にか社会から取り残されることになるでしょう。

日野ならではの価値観のもと、 常に一步先を行く提案を

——今後の成長に向けて、経営基盤の強化としてどのようなものが挙げられますか。

日野自動車は、**世界中のお客様と社会、ステークホルダーの皆さまに信頼され、これまで以上に必要とされる企業となる**ことが、持続的な成長につながっていくことと考えています。そのためには、**自分たちの仕事の意味づけや位置づけを、グループ全体の強固な共通認識として持つことが、今後はますます重要**になってくるでしょう。またグローバル社会で信頼を得るために自らを厳しく律する必要もあり、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスなど**経営の基盤となる部分の強化は重要なテーマ**です。加えて、ダイバーシティの推進や働き方改革にも積極的に取り組み、社員にはさまざまな学びや気づきを得る中で大きく成長する機会を与えたいと考えています。こうした一連の取り組みを通じて、日野自動車の依って立つ「価値観」を再確認し、グローバル企業としてもう一段上のステージを目指していきたいです。

また日野自動車は、2017年11月にインドのAshok Leyland社と協業契約を締結し、2018年4月にはドイツのTRATON社と戦略的パートナーシップを結ぶなど、**グローバルレベルでの仲間づくり**にも取り組んでいます。今後、**さまざまな交流を重ねるなかで、多くの学びや気づきにつなげ、あらゆる価値観を吸収することで、日野自動車が提供する“価値”に反映していきたい**と思っています。



——最後に力強いメッセージをお願いします。

私が日野自動車に入社を決めたきっかけは、トラック・バスのような**社会にとって不可欠なもの**にかかわり、世の中に貢献できる企業に勤めたいと思ったからです。以来40年間、そのような仕事に携わることができている自分に対する「誇り」は、消えることはありません。**トラック・バスの社会にとっての必要性がさらに高まって**きているいま、こうした想いはますます強まっています。

時代とともに社会のあり方や人の意識が変化するのは当然であり、社会課題が尽きることはないでしょう。しかし今後、社会がどれほど変容を遂げようとも、私たち**日野自動車は常に社会課題の解決に向けて一步先を行く提案**をしていきます。「**未来がどう変わるか**」ということより、「**未来をどうつくるか**」のほうが**重要**です。日野自動車の“いま”の取り組みが、10年後、20年後、そして50年後の未来に活かされ、お客様や社会の価値となることが私たちの願いであり、喜びでもあります。こうした想いを胸に、私たちは世の中にとって必要だと言われる企業であり続け、ひいては**サステナブルな社会の構築に貢献**していきます。